

獨逸の人形芝居に就いて

東山新吉

子供達にまつて一番楽しいクリスマスが近づくに、獨逸の町々には市イチが立ちます。曲馬團や見世物や色んな賣店が賑やかに並ぶ中を兩親に連れられて好奇の眼を見張りながら歩るいてゐる子供達の姿は誠に可愛いものです。中でも子供の大喜びなのはカスバー人形芝居であります。カスバーと言ふのは主役の人形の名で、日本ではギニョール人形と呼んでゐる式の、手に缺カめて動かす人形です。首は木製で、簡単な着物ミ手がついてゐます。陽氣で、お人好ヨしで義侠心に富み、飽迄惡に對して戦ふのがカスバーの性格です。さんがり鼻に赤い頬、鈴のついた頭巾に道化の衣裳、カスバーが舞臺に現れて「サア、皆さん集つたかね？」と見物の子供達に話し掛けるミあゝ、皆居るよ！」と一齊に答へます。これでカスバーと子供達は全く一緒の遊び仲間になつてしまひます。惡魔が良を作つてカスバーを待つてゐます。カスバーが陽氣に歌ひながらやつて來て、うっかり良に掛りかけますが、子供の方を見て、「皆さん、此處へ入つても大丈夫かね？」と聞きますと子供達は聲を揃へて、「いけない、いけない！」と叫びます。惡魔が何か説明をしてカスバーを欺さうとするミ、子供達は躍起になつて、「カスバー、それは惡魔が欺してゐるのだよ！」と叫んで注意をします。最後は何時もカスバーの勝で、王子、王女や、村の少年少女を惡魔や魔法使の手から救ふのです。獨逸の傳説、グリム童話等を演じるのですが、必ずカスバーが出て來ます。

カスバー人形の起源は遠く中世の教會で行はれた宗教的な操り人形に發してゐるこの事です。それは勿論子供を相手と

カスパーの鬼退治



新

顔は
馬鈴薯で
鼻は人參で



新
苦
寫

魔法
使

祖母
さん

男の子

したもので無く嚴肅な宗教劇であつたのが、時を経て消滅してしまつたのに、唯一つ道化の人形が生き残つたのです。そして子供の友達として今尙盛んに活躍をしてゐます。このカスパーも大戦後忘れられかけてゐたのですが、此頃國粹保存の運動と共に復活したものです。

次に操り人形としてはミュンヘンに有名な一座があり、度々歐洲各地を巡業して好評を博して居ります。舞臺の美しさ、操りの巧妙さは實に立派なもので、アンデルゼンの童話等を演じて全く藝術的な香氣高い表現を示して居ります。最近にはザルツブルグの操り人形一座がアイヘル教授指導の下に獨逸各地を巡つてゐる事を聞きました。これ等に比べますとカスパー人形芝居の方は土の臭ひのする全く土俗そのもので、藝術と言ふ見地からは比較になりませんが然し又言ふにはれぬ親しみがあつて子供には無條件で喜ばれてゐます處に價値があると思ひます。

其の他獨逸の學校ではよく生徒が人形芝居を演じますが中々可愛いものですね。人形は全て手製で、昨年伯林のさる女學校の生徒のを見ましたが、人形の頭は馬鈴薯で鼻は人參の先で作つてあり、此の繪で御覽の通り簡單なものです。これが實際に演じられると全く生々動き、寫實的な人形でないだけに、反つて豊にお伽の國の雰圍氣を作ります。龍等は人參で作つてあり、龍退治に使ふる槍は果物を食べる時のフォークでありました。全てあり合せのものを應用して手輕に出來、而も趣の深いものと思ひます。

學校や家庭用としてヴァルドルフ製のカスパー人形が色々賣り出されて居りますが、これは上品なもので、よく考へて造つてあります。又人形芝居の筋本等も澤山發行されて居ります。

昭和十年二月九日 於 伯 林